きる さくお名で込む なうちなつけるあるたけいド る和ける 中事えんなくるいかりってくとですかられる 九九百百年十二月十日之馬战量日記 きいいるはちょけんとかとりり 小女 自然多少多不合配所有存品等 過程へ中かん 小意したよったのでるはに 治に格めるなって成れるい 才師到行名 多级

(中略)

そいゆうかからかりるるはるとしれたするころうた カイ 沙松人会只称人力中了一次。温度专路中外 五城山多古古古 高回的松州和中了 国十七日 たべくとうりからいとり 他の五具なるる

出本るるのないとかからかいろ 今年からもやすあるいなしなむしま 公式十分 しりからはるとう中有之の時ち

養百點 ス方様は後海 けれるないいけるのともあいりますいけんかろ ずつろうとるにとれたていてい 1月多湯月高田の後のようかのはら るかずとう行出したれんの様な 积 楼

日大み日

日本のうてるる。おりまとれたるでのからるは るれたて以他 日本多古多大 あるとすると過になれ

四月二日

に会山方事、甘あるる 古人不受的人古色事人 る田及び奉後一高 山地松和 次意四个事会 したと

(後略)

中御蔵入・給人前ニかきあ(阿)て人足可申付由、則嘉 迄参着可致由、就之湯沢・横手・角館三ケ城え(江)仙北 破却仕候得と 御意之由来ル、十五日ニは(者)湯沢 御下リ遅々致候間、同七日に(尓)江戸を罷立下リ申候て(而)城々 去三日之日付二て(而)半右衛門所ら(より)飛脚有、様子は(盤)

(中略)

1

横手城八御普請奉行窪田ゟ(より)弐拾人、刈和野より

左衛門・六左衛門・半七・惣吉・左内ニ申付郷割仕候、先

湯沢分奉行弐拾人申付候

弐拾人、合四拾人郷中高之儀も湯沢壱陪申付候

是八明日被罷出、十九日に(尓)横手迄参着、廿日二普請ニ

取付候様二人足被申付候得と申理候、道具ハ右ニ同シ

同十七日

江戸より去十日之日付ニて(而)半右衛門書中有、御飛脚御 小人今午ノ刻参着、其様子ハ城々破却之事

御年寄衆絵図を以御披露候得は(者)、

公方様御機嫌之由

義宣勝手次第二と被 仰出之由、就之仙北二横手、

比内ニ大館をハ被残置候由、半右衛門ハ同十一日ニ江戸罷立、

廿二日二は湯沢え(江)参着可致由被申越候、横手に(尓)て

御用ニて(而)濃州窪田**ゟ(**より)横手江被罷帰候様ニと申越候

(中略)

同廿五日

廿四日之日付二て(而)半右衛門横手6(より)書中有、湯沢之破却

昨日隙明候て昼立二横手迄参着致候由、明日ハ角館え(江)参着可致由

四月二日

阿仁金山火事二付様子可申付た(多)め(免)窪田ら(より) 鹿渡

村迄参着致候、半右衛門事ハ桧山御城破却之ため(免)

被参候間同道致鹿渡一宿

(後略)

中御蔵入・給人前ニかきあ(阿)て人足可申付由、則嘉 迄参着可致由、就之湯沢・横手・角館三ケ城え(江)仙北 破却仕候得と 御意之由来ル、十五日ニは(者)湯沢 御下リ遅々致候間、同七日に(尓)江戸を罷立下リ申候て(而)城々 去三日之日付二て(而)半右衛門所ら(より)飛脚有、様子は(盤)

(中略)

1

横手城八御普請奉行窪田ゟ(より)弐拾人、刈和野より

左衛門・六左衛門・半七・惣吉・左内ニ申付郷割仕候、先

湯沢分奉行弐拾人申付候

弐拾人、合四拾人郷中高之儀も湯沢壱陪申付候

是八明日被罷出、十九日に(尓)横手迄参着、廿日二普請ニ

取付候様二人足被申付候得と申理候、道具ハ右ニ同シ

同十七日

江戸より去十日之日付ニて(而)半右衛門書中有、御飛脚御 小人今午ノ刻参着、其様子ハ城々破却之事

御年寄衆絵図を以御披露候得は(者)、

公方様御機嫌之由

義宣勝手次第二と被 仰出之由、就之仙北二横手、

比内ニ大館をハ被残置候由、半右衛門ハ同十一日ニ江戸罷立、

廿二日二は湯沢え(江)参着可致由被申越候、横手に(尓)て

御用ニて(而)濃州窪田**ゟ(**より)横手江被罷帰候様ニと申越候

(中略)

同廿五日

廿四日之日付二て(而)半右衛門横手6(より)書中有、湯沢之破却

昨日隙明候て昼立二横手迄参着致候由、明日ハ角館え(江)参着可致由

四月二日

阿仁金山火事二付様子可申付た(多)め(免)窪田ら(より) 鹿渡

村迄参着致候、半右衛門事ハ桧山御城破却之ため(免)

被参候間同道致鹿渡一宿

(後略)